

全国協議会 ニュース

2026年1月1日発行 第401号

発行所: 特定非営利活動法人
全国骨髓バンク推進連絡協議会
〒101-0031 東京都千代田区東神田1-3-4KTビル3階
TEL: 03-5823-6360 FAX: 03-5823-6365
発行責任者: 梅田正造 題字: 仲田順和
<https://www.marrows.or.jp> E-Mail: office@marrows.or.jp

新年のご挨拶



全国骨髓バンク
推進連絡協議会
会長

渋谷 俊徳

新年明けましておめでとうございます。

闘病で大変な思いをされている血液難病の患者さんには正月もありません。同様に、そのような患者さんの支援に取り組まれているボランティアの皆様、関係者の皆様には深く感謝申し上げます。

1年前、新年の挨拶で「2024年に『佐藤きち子基金』の助成要件が緩和され



骨髓・さい帯血バンク・
献血推進議員連盟会長
衆議院議員

笹川 博義

皆様あけましておめでとうございます。日頃、骨髓バンクドナー登録推進、血液難病患者さんの支援活動、骨髓バンク事業の啓発活動に取り組まれているボランティアの皆様、関係者の皆様に敬意を表するとともに深く感謝申し上げます。

血液難病の患者さんの中には分子標的薬治療を受ける方も多く、その経済的な負担は大きい為「高額療養費制度自己負担額引上げ撤回を求める要望書」を昨年、全国協議会の理事の皆様とと

たこと、血液難病の患者さん・ご家族を支援することこそ、全国協議会の使命である」と申し述べました。1年が経過し、どのような状況変化があったかを確認したところ、2025年度の佐藤きち子基金による患者支援金は10月までの7カ月で、前年度1年間の患者助成金額を既に超過したことがわかりました。助成要件緩和の影響などの要因もあると思いますが、社会的経済状況の影響があるのではないかと思います。そのような中、少しでも患者さん・ご家族の役に立てたのであればこれほど有意義なことはありません。

また、昨年は関係機関との連携強化

にも仁木博文厚生労働副大臣（当時）に手交いたしました。その結果、自己負担額の引き上げが撤回されたことは皆様ご承知の通りです。この要望書の提出はとても意義のあることでした。

日本は医療水準が高いだけではなく、国民皆保険制度など、社会制度が充実していると評価されています。しかし、制度の狭間で困っていらっしゃる患者さんやご家族が多くいらっしゃることも事実です。高額療養費の問題だけではなく、ドナーさんの差額ベッド代や造血幹細胞の運搬費の問題などまだ課題は多く残されています。超党派の議員で構成される骨髓・さい帯血バンク・献血推進議員連盟もボランティアの皆様、関係機関の皆様と力を合わ

に取り組みました。ボランティアの立場だからこそ知り得る情報を関係機関と共有することでさまざまな課題解決に取り組みました。

毎年、多くの方が血液難病にかかりています。私どもの活動に終わりはありません。今年も決意を新たにして活動に取り組んで参る所存です。

精力的な活動のためには体力と健康が欠かせません。どうか皆様健康には十分にご留意ください。

皆様の益々のご活躍とご健勝を祈念して新年のご挨拶とさせていただきます。

さて今年もそれらの課題の一つ一つに取り組んでいく所存です。

血液難病の患者さん・ご家族の困難が少しでも低減されることを祈念して、新年のご挨拶とさせていただきます。

今年もよろしくお願ひいたします。

骨髓バンクとさい帯血バンクの最新情報

● THE BANK NOW (速報値) ●

骨髓バンク

■ 日本骨髓バンクの現状(2025年11月末現在)

	10月	11月	現在数	累計数
ドナー登録者数	3,576	2,701	566,443	1,017,378
患者登録者数	214	189	1,773	72,577
採取数	55	60	—	27,490
末梢血幹細胞	49	37	—	2,736
合計	104	97	—	30,226

2023年4月から統計基準が移植件数から採取件数に変更

■ 11月の区分別ドナー登録者数

献血ルーム／567人、献血併行型集団登録会／2,053人、集団登録会／45人、その他／36人

■ 11月の年齢別ドナー登録者数(現在数)

10代 5,039人／20代 100,887人／30代 137,761人
40代 207,599人／50代 115,157人

■ 11月の20歳未満の登録者 386人

注) 数値は速報値のため訂正する場合があります。

《MONTHLY JMDP(12月15日発行)より抜粋》

さい帯血バンク

■ さい帯血保存公開本数 10,619本

(2025年11月末現在、国内6バンクの合計)

■ 11月の移植件数 114件 (累計 26,350件)

《日本赤十字社 骨髓バンク・さい帯血バンク ポータルサイトより抜粋》

「スワブ&オンラインドナー登録」トライアル3 始動

多忙な若年の方も登録しやすい「スワブ&オンラインドナー登録」のトライアル第3弾が1月20日(火)に開始されます。日本骨髓バンクの専用サイトで登録条件を確認・必要事項を入力、後日届くスワブ(専用の綿棒)で

口腔粘膜細胞を自身で採取・返送することでドナー登録が完了します。トライアルは目標数3,000人に達した時点で終了となります。患者支援のため多くの方に参加いただけるよう積極的に周知をお願いします。

新年のご挨拶



厚生労働省
健康・生活衛生局
難病対策課移植医療
対策推進室 室長

島田 志帆

謹んで新年のお祝いを申し上げます。平成3年に骨髓バンク事業が開始されて以来、公益財団法人日本骨髓バンクを介した骨髓や末梢血幹細胞の移植は、昨年、累計3万例を達成いたしました。

このように本事業が発展致しましたのは、骨髓バンク事業を支えて頂いて



公益財団法人
日本骨髓バンク
理事長

岡本 真一郎

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

日本骨髓バンクは2026年で設立から35周年を迎えます。ドナー登録者数は累計で100万人を突破し、移植数は累計で3万例に達しました。これらはドナーの皆様をはじめ、国、地方自治体、日本赤十字社、医療関係者、ボランティアの方々などの長年にわたるご支援の賜物です。この場をお借りし



日本赤十字社
血液事業本部長
紀野 修一

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

昨年5月には、国内の骨髓バンクドナー登録者数が累計100万人に到達し、10月には骨髓バンクを介した移植件数が累計3万例に達するという大きな節目を迎えました。これもひとえに、貴協議会をはじめとするボランティアの皆様、骨髓ドナー登録をしてくださった皆様、そしてご家族の皆様の献身的なご支援の賜物であり、心より深く感謝申し上げます。

日本赤十字社は、「人間を救うのは、人間だ。」をスローガンに掲げ、命と

いる全国のボランティアの皆様方や関係者の方々の御理解、御支援の賜物であり、この場をお借りしまして深く感謝を申し上げます。

昨年は、若年層へのドナー登録促進の強化という課題に対して、新たなドナーの登録方法であるオンライン登録の導入に向けた環境の整備が進められ、厚生労働省としても予算補助という形でこちらの取組を支援いたしました。また、厚生労働省から文部科学省に対して、学生が骨髓バンクドナー候補となった場合における教育上の配慮等を求める通知の発出依頼を行い、令

まして深く感謝申し上げます。

日本骨髓バンクは2026年も、骨髓バンクドナーからの移植を必要とする全ての患者さんに、最良のドナーから最適な時期に造血幹細胞を届けることを目標に努力を続けます。

まず、2026年はスマートによるオンラインドナー登録の早期導入を目指し、1月20日よりトライアルを開始いたします。また、コーディネートにおいては動画の活用やオンライン等を活用したりモート面談を推進して参ります。さらに、SNSでの情報発信や学域での語りべ講演推進などを通じ

健康、尊厳を守ることを使命として、国内外で災害救護活動、医療・社会福祉、献血など多岐にわたる活動を展開しております。その中でも造血幹細胞事業においては「造血幹細胞提供支援機関」として、移植を必要とされる患者さんに質の高い移植機会を提供するため、献血会場での骨髓ドナー登録希望者の受入れをはじめ、情報の一元管理や広報普及啓発を行っております。特に、少子高齢化が進む現代においては、若年層への働きかけとして学校教育と連携した造血幹細胞セミナーの開催やSNSによる情報発信、更には読みやすい広報誌の制作を通じて次世代の認知度向上に力を入れております。

本年も関係者の皆様と連携を深めながら、持続可能な事業運営に取り組ん

和7年4月28日付で各公私立大学長などに宛てて通知が発出されました。

本年におきましても、移植を希望する患者の方々が一日でも早く最適な医療を受けられるよう、関係者の皆様の御意見も伺いながら、造血幹細胞移植対策の推進に全力で取り組んでまいります。

結びに、造血幹細胞移植対策事業の推進に当たり、貴協議会の益々の御支援、御協力を賜りますよう心からお願い申し上げますとともに、会員皆様方の御健勝、御活躍を心より祈念いたしまして、御挨拶とさせていただきます。

て、若い世代における骨髓バンクの認知向上にも取り組んで参ります。

現状では、骨髓バンクで移植を希望する方の約5割にしか移植の機会を提供できておりませんが、時代や社会の変化に応じた施策のもと、若年ドナーの登録推進、ドナー負担軽減、コーディネート期間短縮を着実に進めて参ります。今後ともより一層のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

末筆ながら、貴協議会および会員皆様の益々のご発展ご健勝をお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

でまいります。引き続き、皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

本年が皆様にとって実り多き一年となりますことを心より祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

末筆ながら、貴協議会の益々のご発展と、皆様のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

プルデンシャル・ビデオ・クリエイション・アワード開催中

プルデンシャル生命保険株式会社では、若い世代のドナー登録促進を目的とした動画コンテストを開催しています。2月28日(土)まで募集しておりますので是非ご応募ください。

応募要領はこちらから▶





全国骨髓バンク推進連絡協議会
理事長
梅田 正造

新年明けましておめでとうございます。

2025年度全国骨髓バンク推進連絡協議会は、設立35周年を迎える活動方針の柱は前年に引き続き「全国各地の会員団体の皆様の意向を汲んで、各地の活動の支援に力を注ぐ」ことを掲げました。

2025年を振り返ります。佐藤きしき子基金が1月に助成額累計1億円を突破しました。それまでに380人を超える方々を支援し、多くの患者さんやそのご家族から感謝のお言葉をいただきました。役員改選の年に当たり5月25日（日）の総会で渋谷俊徳会長が就任しました。新体制が承認され具体的な活動方針が了承されました。また「白血病と言わいたら」第7版が5月に発行されました。日本骨髓バンクとは理事長、広報部長、担当者と協議会の正副理事長、担当理事、事務局が定期的に意見交換をするようになりました。

2026年は、2025年の上記活動の更なる進展に努めて活動をしてまいりますので、皆様方のご支援をよろしくお願いいたします。

中野中学校 社会貢献活動調査



11月21日（金）、東京都中野区立中野中学校から、午前と午後合わせて2年生10人が「社会貢献活動の調査」のために全国協議会を訪れ、白血病の患者さんのこと、骨髓移植のことを学んでもらい、自身が進んで何をするか考える機会を持ってもらいました。生徒さんから寄せられた感想文を以下に

骨髓・さい帯血バンク・献血推進議員連盟総会開催



12月15日（月）に衆議院第二議員会館会議室において開催された超党派骨髓・さい帯血バンク・献血推進議員連盟（笠川博義会長、自見はなこ事務局長）総会で上野賢一郎厚生労働大臣及び黄川田仁志内閣府特命担当大臣宛の決議の中で全国協議会が要望した以下の項目が採択されました。

- ①企業等で行われているドナー休暇制度について引き続き促進に向けた支援を行うこと
- ②ドナー側の室料については、レシピエント側の経済的負担に配慮したものとするよう必要な検討を行い、その結果に応じて必要な措置を講じること

総会に先立ち11月13日（木）に当議員連盟のヒアリング会が開催され、当協議会からは以下についてプレゼンテーションを行いました。

ドナー休暇制度に関する全国協議会の独自調査において、登録いただけない方の明確な理由としての多くは「入

院のための休みが取れない」であったことをお伝えし、ドナー休暇制度の導入促進及び定着は、ドナー候補のコーディネート中止例が減るのみでなくドナー登録者の大きな増加要因にもなる可能性があり、実効性のある具体策立案についてお願いをしました。

移植を受ける患者さんの全額負担となっているドナー側の差額ベッド代に関して、佐藤きしき子基金に20万円を上回る申請例もあったことを紹介し、医療的な配慮からドナーに個室に入つてもう必要があるのは事実としても、「個室代の上限を設定する」「差額ベッド代を公的に支援する」などの検討をお願いしました。本件については造血幹細胞採取施設側の諸事情もありますが、参加していた関係各位にしっかりと共有できたことは大きな前進と考えます。

まだ土俵に上がっただけですが、確実に反映されるよう支援の働き掛けを続けてまいります。

だ、そんなときに全国協議会の方々のサポートがあると知り、とても心強い存在だなと思いました。

二つ目は、全国協議会の方々がおっしゃっていた言葉です。それは「やってあげている」と勘違いしないことです。私はその言葉を聞いて、人になにかをするときには「やってあげている」という感情を忘れて人と接するようにしたいと思いました。

今回の活動を通して、白血病や骨髓移植というものをもっと多くの人が知るべきだと思いました。なぜなら、誰しもがなりうる病気だし、もしさなったときに知っているのと知らないのとでは大きく違うからです。

今回お話をいただいた方々の言葉を忘れずに生きていこうと思います。

若年層が集う会場でドナー登録啓発と追悼展開催

愛知医科大学での啓発



11月1日（土）・2日（日）、「愛知医科大学第50回医大祭」会場にて齊藤樺嵯斗さんの追悼展、骨髓バンク普及啓発活動が行われました。学祭実行委員の学生さんたちの思いで始まった追悼展と広報活動、県内外から多くの方にご来場いただきました。皆様、樺嵯斗さんの闘病の様子など涙しながら見てい

GFEST.2025 での啓発

11月22日（土）・23日（日）、Gメッセ群馬（高崎市）で開催されたGFEST.2025の会場でブースをお借りし啓発活動を行いました。若い方が集まる音楽フェス会場での活動が実現したのは、GFEST.2025の主催の方が闘病中に齊藤樺嵯斗さんのSNSに励まされたことから、齊藤さんのお父様にフェスでの追悼展の開催、ドナー登録者拡大という樺嵯

誰かの力に

医学部生として医学を学び、ラグビーに打ち込んでいた息子は、22歳で悪性リンパ腫を発症しました。抗がん剤治療と二度の骨髄移植、再発と生死の境をさまよう日々を経ても、最後まで「誰かの力になりたい」そう思い続けていました。治療の痛みや恐怖の中でも、同じ病と闘う人の励みになればと、自ら



らっしゃいました。啓発について多くの方がブースに立寄り骨髓バンクについて詳しくお話を聞いてくださいました。

また、お元気になられた患者さんや提供ドナーさんのうれしいお声も届きました。

病気と闘っていた樺嵯斗さんのさまざまな思いはご両親が受け継ぎ、丁寧に皆様をお迎えしていました。そこにはいらっしゃらない樺嵯斗さんの「お父さん、お母さん、ありがとう」が聞こえてくるようでした。いや、そこに樺嵯斗さんはいらしたのだと思います。

私たちも樺嵯斗さんの思いを大切に一人でも多くの患者さんがお元気になることを願つて活動を続けてまいります。

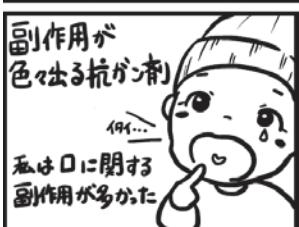
（あいち骨髓バンクを支援する会 水谷久美）

斗さんの遺志を繋ぐためにと全国協議会にもお声がけいただいたことからでした。日本骨髓バンク、日本赤十字社にも広報資材のご提供をいただき、ご来場のたくさんの方に骨髓バンクに目を留めていただくことができました。関係者の皆様に感謝申し上げます。同じブースの齊藤樺嵯斗さんの追悼展では、思い出の写真等が展示され、SNSのフォロワーさんが途切れることなく来場され樺嵯斗さんを偲んでおられました。（全国協議会 事務局）

の経験を包み隠さず発信し続けました。親である私たちは、病と向き合う息子の強さに何度も心を打たれ、同時に何もできない無力さに苦しみました。それでも家族で支え合い、ただ生きてほしいと祈り続けました。9月16日、息子は永眠しましたが、その勇気と優しさ、誰かを思う心は今多くの人の中に生きてくれていると願っています。息子が残してくれた繋がりに心より感謝しています。

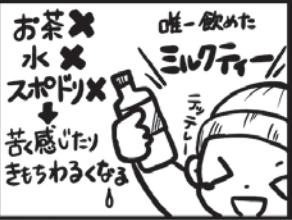
最後に息子の言葉を「生きるって素晴らしい、コンを詰めずゆっくり頑張りましょう」。

おどろきのエピソード
抗がん剤②



特にうかたのは
味覚障害

本当ひんじ...



当時の私の 70%は

牛乳の朝

ミルクティーで出来ていたば！

「30歳で白血病となり2度の移植を経験。現在は自分らしく生きることを目標にお絵かきクリエイターとして活動中。」

心からのご寄付に感謝申し上げます・11月21日～12月20日(敬称略)

当協議会への寄付金は税制上の優遇措置を受けられます。

●一般

千葉ゆうきのライオンズクラブ
現金 50,000円
早瀬 昭一郎
ダブルエスタイガー
匿名
匿名

●佐藤きち子造血細胞移植患者支援基金
日根 和美
現金 5,000円
●募金箱
株式会社 クスリのアオキ
現金 1,481,969円
株式会社 マルト商事
現金 51,309円
株式会社 ナルックス
現金 64,287円

株式会社 フクヤ
現金 14,232円
株式会社久美堂
現金 35,467円
●つながる募金
現金 1,200円
●キモチと。
現金 19,413円
●マンスリーサポート
現金 58,000円

活動資金の支援をお願いします

銀行口座 三井住友銀行 新宿通支店
普通 5666655

郵便振替口座 00150-4-15754

□座名：特定非営利活動法人 全国骨髓バンク推進連絡協議会

郵便振替口座の振込用紙を郵送いたします。当協議会までご請求ください。